

金沢市の鳥居の形式について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2943

「金沢市の鳥居の形式について」

佐藤 こずえ

日本には、古来記紀にもかかれた時代から存在する建築物がある。それは今では神社の入口に建てられるようになった。「鳥居」である。鳥居は「俗界と神域を分ける指標」としての役割を持つと言われている。

全国の鳥居には多くの形式があり、根岸榮隆氏が細分したものでは64種類が見出される。しかし本稿では、金沢市内の300基を超える鳥居の中から、筆者が撮影した288基の鳥居に限って分析・考察した。考察する年代区分は明治・大正・昭和戦前・昭和戦後・平成とした。結果、その中でどの時代でも圧倒的に多いのが、一般的に鳥居として一番多い形式、「明神式」である。

結論は、金沢市内の鳥居の形式は、時代を問わず明神式が大半をしめている、ということであった。



明神式鳥居